

## ■佳作： デコラードール

クラシカルなサンダーソンと日本古来の障子とのコラボレーションは新鮮で、色合わせも絶妙です。

### タイトル： 美の壺 ～和と洋の融合～

美しいものには伝統があります。150年の歴史を誇るサンダーソン社の生地的美しさを、日本が誇る伝統工芸の一つである障子が背景からそっとその優美さを演出しています。時代が変わっても長く愛され続けるものの存在感をコンセプトにディスプレイしています。



#### <正面窓>

窓に和(=障子)をベースに置き、外からの光を柔らかく店内に取り込んでいます。まだまだ和室をお持ちのご家庭も多い中で、障子とカーテンという相反するものをあえて組み合わせたとところが最大のポイントです。障子「レース」飾りドレープドレープと、4重になっても違和感なくまとめています。古風にならないように、レースで軽やかかつ華やかになるようにムース風にデザインしました。上部中央からリボンで掲げ上げるだけの簡単スタイルなので、どのご家庭でも気軽にコストを掛けずにできます。

また、テーマカラーに「青」を用いています。

Rosalieのブルーのバラ柄は、華やかでありながらも落ち着いた着きのある色です。甘くなりがちなバラ柄をシックに大人っぽくコーディネートできます。日本では古くから藍染めや伊万里を代表する染付の磁器に多く使われてきた「藍、青」は見ているだけで、懐かしく心が和みます。藍=植物。ですから、障子にもRosalieのブルーのバラ柄がとても良く合います。一般的な日本の住宅の窓、でも「こんな素敵な空間で友人を招いてお茶会をしたい!」と思わせるディスプレイです。

#### <ディスプレイボックス>

こちらのディスプレイは、生地の風合いの良さと、カラーで遊びを入れることがポイントとなっています。シルク、麻、綿の天然素材をテーマに様々な生地をミックスし、カラーで全体を上手にまとめています。

\* Painter's Gardenは目に飛び込んでくる斬新な柄ですが、見ていて馴染む柄です。

この柄を更に活かすには、裾に太めのボーダーをアクセントに入れます。柄の中から1色を取って入れたボーダーは、ドレープカーテンにした際全体を引き締めます。

\* 両サイドのドレープは、スタイルカーテンのバリエーションを見せています。

左側紫の Lyric Silk は、裏地にギンガムチェックで遊びをいれました。ギンガムチェック側を表にしても良く、リバーシブルドレープカーテンです。更に上部には、ダブルフリルギャザーでボリューム感をだしています。このダブルフリルギャザーは、ドレープ本体とランナーを交互に入れてあり、取外しがきくように仕掛けがしてあります。

\* 右側はBretonとArlesの麻のコンビです。

上部と裾部分にそれぞれ太めのボーダー(切り返し)を入れています。シンプル柄の生地は単調になりやすいので、ボーダーのようなアクセントを入れます。ボーダーの位置や太さでも印象は大きく変わるので、お客様と相談しながらお好みで作る「オーダーカーテン」ならではの楽しみをアピールしています。